

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200205		
法人名	社会福祉法人 正松会		
事業所名	グループホーム 椿の里	ユニット名	
所在地	福岡県飯塚市椿623番地20		
自己評価作成日	平成27年3月25日	評価結果市町村受理日	平成27年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年4月13日	評価確定日	平成27年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成14年4月に開設し、介護度1～5までの方、年齢は79歳から98歳の方が入所されている。併設の特養、デイサービス、ケアプランセンターとの連携がとれており、行事の共同開催、利用者の入所の際の情報交換がスムーズにできている。職員は年配者が多く、落ち着いたあるグループホームです。月に1～2回大きな行事を計画しており、外出する機会を作り、家族にも参加を呼び掛けている。家族、職員、地域が利用者の方を支援しながら、利用者の方に長く、里で暮らして欲しいです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>飯塚市椿にある“グループホーム椿の里”は、ホームの前に大きな桜の木がある。春には綺麗な花が咲き、桜の木の下で花見を楽しまれている。敷地内には四季折々の木々が植えられ、リビングから、梅や椿、紫陽花、秋桜等を楽しむ事ができる。外出支援も行われ、粕屋町や宗像市までドライブをされており、職員も一緒に楽しむ姿勢が日常で見られている。庭で収穫した梅の実で梅干しを作ったり、金柑シロップも手作りである。日々の食事職員が愛情を込めて作られており、ご利用者も一緒に下ごしらえをされている。職員は家庭的な雰囲気大切にすると共に、介護のプロとして、ご利用者個々の“できる能力”のみでなく、“できそうな能力”の把握も努めている。次第にできる事が増え、穏やかにになれる方も多い。管理者を中心に良きチームワークができており、これからも温かい生活支援(自立支援)を続けていく予定である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で作った介護理念を目標に、毎日介護にあたっている。	理念の「住み慣れた・・・」と言う表現に、地域密着の視点を込めている。地域の中で「その人らしく」、生きてこられた人生を大切にしており、ご利用者の方々がモップがけや料理の下ごしらえ等をして下さっている。ご利用者同士の関係も大切に、お互いが傷つかないよう配慮を続けている。	今後も理念にある「その人らしさ」を再アセスメントし、記録を増やしていく予定である。「穏やかに」という理念を大切にすると共に、今後は更に心身機能の維持・向上に繋がる“動きがある生活(介護)”を増やしていきたいと考えている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園児、ボランティアを招待し、交流している。地域とのかかわりが続くように地域の病院、美容室、スーパーなどを利用している。	法人の夏祭りに地域の方が来て下さり、子ども達も金魚すくい等を楽しまれた。母体施設で幼稚園児と七夕作りをしたり、小学校の子ども達の合唱等を楽しまれている。穂波町文化祭や盆踊り、八幡の流鏝馬見学や養源寺の火渡り行事に参加する等、地域の一員としての交流を続けている。	社会福祉法人の役割を大切にしており、今後も地域貢献を続ける予定である。グループホームの専門性を活かすため、民生委員の方とも協力し、地域の集い等で「認知症(ケア)」等の理解を深める取り組みをしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大学生、看護学生、高校生の実習生を受け入れている。大学生は出身地区の施設を希望され、実習に来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度サービスの状況や、利用者の健康状態他、報告している。又、委員さんより地域のことなどの情報を得ている。	ホームの取り組みやケア内容等を報告している。参加者から地域情報を頂く事も多く、季節の花見の場所等を教えて頂き、ドライブを楽しまれている。「地域貢献活動」に関する情報交換も行われ、ホームの役割を考える機会になっている。議事録を残しており、家族に郵送していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回介護相談員を受け入れ、利用者、職員と談話している。毎回の運営推進会議議事録を市に提出し、高齢福祉課の方が読んでおられる。	運営推進会議で、市の方にホームの取り組みを理解して頂いており、3か月に1回、ホームの空室情報等をメールで報告している。管理者は、飯塚市の地域密着型連絡協議会の立ち上げに関わり、市の担当者や他の事業所と協力して、ケアの質向上に向けた取り組みを続けてこられた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修を受け、グループホームに持ち帰り、会議でその内容を報告している。最近、ミーティングの時に言っているのが「ダメ」という言葉を言っは、「ダメ」ということです。	身体拘束は行っていない。ご利用者同士の関係を丁寧に観察し、少しでも穏やかに暮らせるよう、職員間の話し合いを続けている。昼間は施錠せず、帰宅願望の強い時は一緒に散歩したり、家族に面会に来て頂く等の対応をしており、穏やかに過ごされている方が多い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修で学ぶ機会がある。それをグループホームに持ち帰り、グループホーム会議で報告して皆で再度自分たちはしてないか点検している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部、内部研修を受け、グループホームに持ち帰り、会議の時に報告し、皆で勉強している。	職員がGH協議会などの外部研修に参加し、伝達研修を行っており、職員全員が制度の理解をしている。ホーム内に資料やパンフレットを用意し、家族懇親会の時に、パンフレットを配布し、制度の説明も行われた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时、契約時に時間を掛け説明している。グループホームと特養との違いを例に挙げて説明することもある。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意している、又面会時職員と家族が気楽に話ができるように心掛け、意見や要望を引き出すようにしている。	利用者満足度アンケートを行い、日々のケアに活かしている。家族面会時やホーム便り等で日々の暮らしを報告しており、家族懇親会や夏祭り、外出行事の時には家族と情報交換し、要望などを伺っている。認知症の進行を心配される家族もおられ、主治医への報告も行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月グループホーム会議、代表者会議、年1回法人全体の職員会議で意見や提案が言える。	日々の献立や毎月の行事企画のアイデアも多く、ご利用者の事を一番に考えると共に、職員自らが楽しむ姿勢が見られている。「食べる事が楽しみ」と言うご利用者も多く、焼き栗や蕎麦打ちの実演も楽しまれた。法人の委員会活動にも参加し、職員同士で活動内容を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取ることを支援し、それに応じた雇用形態や給与等に反映し、やりがいや向上心につながるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集についてはハローワーク等を通じ性別、年齢等の制限はしていない。長期休暇がある時は短期で職員を採用しカバーした。	事務長などが面接しており、「やる気」と共に、料理等を含めて、ホームの仕事ができる方を採用している。採用後はホーム内で研修を行い、介護技術の向上に繋げている。料理上手な職員も多く、人生経験の多さから、ご利用者の思いに寄り添うケアを続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員採用時、職員会議の中で理事長が職員心得として人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	管理者は、ご利用者の思いを大切にしている。ご利用者が「どのように考えているのか」という視点で、職員間の情報交換を行い、職員も同じ思い(姿勢)でケアができています。家庭的な雰囲気を大切にすると共に、プロの介護職として丁寧な観察を行い、ご本人の意思決定を引き出している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種会議、合同委員会、行事等を通じて職員一人ひとりの力量等を把握し、苑内研修、外部研修等を積極的に受ける機会を与えている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会、飯塚市地域密着型サービス協議会などに参加し、同業者との交流をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時、契約時に本人様の訴え、希望をお聞きし又、バックグラウンドアセスメントを家族に書いて頂きそれを利用している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時、契約時に時間を掛け、家族と面談を行い要望を聴いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の面談を通して必要としている支援に努める。又、法人ディサービス利用者の入所が多くディサービス職員、ケアマネ等の助言ももらっている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、おやつなどを一緒に会話しながら、同じものを食べている。買い物などの手伝いをしてもらった時は、丁寧にお礼を伝えている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日を家族だけで過ごせるよう声掛けし、リフト車でレストランに送迎したり、椿の里で家族、他の利用者、職員と一緒に誕生日食を食べて貰ったりしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時、利用の美容室、病院の利用を入所後も勧めている。又、同じ法人のディサービスを利用され入所された方は、ディサービスの友人が訪ねてこられる。	生活歴を把握すると共に、自宅周辺をドライブしたり、出身校の小学校にお連れする時もある。出身地区のお祭りに参加したり、地元の敬老会や婦人会に家族と行かれる方もおられる。地域巡りをする時に馴染みの方との交流を楽しまれたり、近所の方がホームに来て下さっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのソファの席を姉妹同士で座ってもらい、くつろいでもらったり、会話が出来るような食事の席の配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の入院先にお見舞いに行き、家族と、これからの事を話したり、特養に入所された方、その家族の方との交流を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できない方も態度、日常会話の中で思いを推測し、利用者の希望に添えるようにしている。	介護経験が長い職員も多く、ご利用者の喜怒哀楽に寄り添い、その都度の要望を把握するように努めている。ジェスチャーで伝えて下さる方にも、言葉で言って頂くように声かけし、思い(言葉)を引き出している。「お寿司を食べたい」「帰りたい」等の要望を介護計画に繋げている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のバックグラウンドアセスメント、入所前利用のディサービス、ケアマネより情報を集めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時はケア記録を特に細かく書いたり、申し送りを丁寧に伝えている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議に家族に参加をしてもらい、全職員で家族の生の声で意見や今までの生活状況を聞いたり、現状を伝えたりすることがある。	ご利用者の状態に応じて、家族等と話し合い、介護計画の見直しをしている。自立支援の視点を大切に、できる事やできそうな事を把握し、車いすの自走ができるようになった方もおられる。個別援助計画に通じる計画が作られており、職員は日々待つケアを心がけている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングで気づきなども報告し合っている。又、個人記録に記入している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人のディサービスを利用されていた方が入所されたときはディサービスに行きたがられるので、ディサービスにお連れし慣れた所ですごしてもらうときもある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームの日常の買い物にお連れしカートを押したりして手伝ってくださったり、時々お好きなミカンなど買われ、喜んでくださいます。散歩に行き近所の方と挨拶を交わしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時出来るだけ入所前のかかりつけ医の利用を勧めている。かかりつけ医がおられない方は協力医を紹介している。	日々の健康管理をしており、早期発見に努めている。併設特養の嘱託医の診察を受けたり、往診にも来て下さる。体調が変化した時は管理者に相談し、特養の看護師との協力体制もできており、ホームにも来て下さる。受診結果は家族と共有できている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養との朝礼に出席し、看護師に報告したり、急に变化ある時も相談したり、処置をしてもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市立病院が近くにあり、入院時は1～2日置きに面会に行き、看護師、家族との会話でその時の状況を把握している。又、利用者、家族の不安感の軽減に努めている。病院側には退院時の受け入れ方など相談している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や様態が変わるたびに家族に重度化した場合や終末期のことについて話し合っている。	ご本人や家族に終末期の意向を伺い、24年度に初めての看取りケアが行われた。家族も宿泊し、一緒に介護をして下さった。24時間の医療連携ができ、往診体制もあり、ホームでできる事はさせて頂いている。常時の医療行為が必要になったり、家族が希望される場合は、病院や併設の特養に移られる方も多い。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修を行っている。誤嚥事故があった時、グループホーム会議で話し合い、マニュアルを再度見直した。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。椿町内会と自衛消防隊の協力体制を築いている。	系列施設合同で訓練している。スプリンクラーがあり、通報訓練時に消防署と電話で連携している。26年夏に避難用の出口が完成し、次回の訓練で活用予定である。地域の方の避難場所でもあり、椿の町内会と自衛消防隊の契約を行っている。特養に備蓄と自家発電を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の際の声掛け、徘徊時の声掛けが拘束にならないよう気を付けている。利用者が他の利用者に対して声掛けをして、職員が仲裁に入る必要があるとき、両方を傷つけないようにと職員は気を使っている。	ご利用者個々の会話能力に応じ、自己決定しやすいように声かけしている。顔の表情を読み取るように努め、トイレ誘導の時も羞恥心に配慮している。「だめ」と言う言葉は使わず、「一緒に行きましょうか」等の声かけをしている。場面に応じて、職員が変わってケアをする時もある。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々のコミュニケーション能力に応じ、自己決定しやすいように声掛けしている。顔の表情を読み取るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れに沿い、自分なりに自由に過ごしてもらっている。レクレーションとして体操、散歩、歌、ゲームなど声掛けして行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者は毛染め、パーマされている方、短髪、長髪の方がいる。衣類は出来るだけ家族に用意していただき、その人らしいものが用意されている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食「巻きずし、おはぎ」を一緒に作ったり、料理の下ごしらえを手伝ってもらっている。最近喜ばれたのは「わけぎのねぎ曲げ」です。	管理者は食事を大切にしている。3食とも手作りで、買い物の際は、ご利用者がカートを押し、野菜等を選んで下さる。家族の方が筍等を差し入れて下さったり、畑の野菜も収穫し、季節の旬の食材を使い、美味しい料理が作られている。ケチャップ好きな方が多く、献立に盛り込んでいる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に相談にのってもらっている。食事以外に10:00、15:00、毎食前に飲水をしてもらっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア、口腔ケア声掛けをしている。昼食後は嫌がられる方がおられるので声掛けのみの時もある。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の訴え、時間でのトイレ誘導を行い、排泄パターンをチェックし、排泄の失敗が少ないよう工夫している。	各居室にトイレがあり、ベッドからトイレの移動能力に応じて、ベッドの場所を変更している。ご利用者の排泄パターンを把握し、個別の誘導を続けており、入居時に紙パンツを着用していた方も、布パンツ(パッド)に変更する事ができた。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を飲んでいただいたり、野菜を多く取るように心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて週3回入浴の方と毎日入浴される方がいる。入浴時間は午後と決めているが、シャワー浴はいつでもできる。	希望に応じて、入浴は毎日できる。2人介助が必要な方も、週3回は入浴できるようにしており、体調に応じて職員が抱えて湯船に浸かれている。入浴を拒まれる時は無理強いせず、ご本人の意思決定を大切にしている。柚子湯や菖蒲湯を楽しみ、湯船の中で会話も弾んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、本人の希望に合わせて、リビング、居室で過ごしてもらっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤提供書で全職員が薬の確認をしている。又最近入所された方の定期薬を医師と相談し減らしており、減らした後の申し送りは細かくするようしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの能力に応じ、茶わん拭き、買い物、タオル干し、料理の下ごしらえ等手伝って頂いている。最近は分葱の皮むき、葱まげをして頂いて、利用者の方は得意げに上手に巻いておられた。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物がお好きな方は、施設の買い物にお誘いすると「喜んでいきます。私は出たがりだから」ととても喜んでくださる。花見、ピクニック、イオン等家族をお誘いし、外出している。	ホーム周辺は季節の花が多く、園庭を散歩している。毎月の行事計画を立て、雛祭りや養源寺の火渡り行事などに出かけたり、稲築公園や駕与丁公園、宗像大社(菊花展)等に出かけている。道の駅でお弁当を買い、外で食べたり、家族も一緒に行かれる時もある。福岡市民会館で宝塚を鑑賞でき、ご利用者も喜ばれた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金に興味なく、利用者は皆お金を所持していないが、買い物の時は預ったお金を渡している。神社にお参りした時はお賽銭を渡している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時、混乱され家族との話で落ち着かれそうな時は電話をかけている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファが掃き出し口近くに設置しており、日がさす時はこまめにカーテンを引いている。季節感が出るように桜、クリスマス、正月、お雛様等季節の物を飾っている。	リビングの天井は高く、開放感のある造りになっている。リビングから庭を眺める事ができ、季節を感じる事ができる。リビングで過ごされる方も多く、ソファを増やし、ご利用者が穏やかに過ごせる工夫を続けている。日々の掃除や換気も行い、日々気持ち良く過ごせるように努めている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ4台がUの字に置いてあり、会話が楽しめる方は隣同士に座っている。食卓の椅子に長く座っている方もいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は使い慣れた家具を持って来ていただくようお願いしている。利用者の写真、家族と写した写真を掛けている。	ベッドは備え付けである。テレビやラジオを持ち込まれ、家族の写真を飾っている方もおられる。収納棚が大きく、衣類やおむつ等が十分収納できるスペースになっている。家族の方が雑誌や脳トレのノートを持参されたり、定期的に鉢物の植物を持ってきて下さっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に大きく書いた名札をぶら下げたり、トイレ表示を下げている。又、夜間は居室内トイレの電灯を点け、戸を半分開け、トイレが分かりやすいようにしている方もいる。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				